

# 地元産発信

すか葉し、ハッシュタグ「#すか7周かなごっそ」をつけて投稿した人に、ソフトクリームをプレゼントする。同直売所は出荷登録者4300人で、来場者数は300万人を超え、市内外の利用客や飲食店から人気を集める。公式インスタグラムは2016年12月に開設し、フォローワ―数は約1300人。詳細は同直売所ホームページを撮影



に任命された各大学の代表者と篠崎農林部長(左) (埼玉県提供)

千葉県のJA山武郡市は「さんぶの農産物」ブランドを増やし、さんぶブランドを確立しようと、さまざまなPR活動に取り組んでいる。県内スーパーでの試食会、商業施設や取引市場での消費宣伝会をはじめ、昨年から駅ナカ店舗での即売会に取り組み、産地PR、販売力の強化につなげる。

JR東日本が運営する地産品ショップ「のもの」では生産者が直接、新鮮な農産物を販売する「のものマルシェ」を定期的に展開。JAは「マ

加工用ニンニク 契約先へ出荷 埼玉・JAちちぶ

【埼玉・ちちぶ】JA

## 都心`駅ナカ`で販売好評



多くの来店客であふれたJR上野駅の販売会場

ルシエーに昨年2月から参加している。月1、2回、JR上野駅と秋葉原駅で行う。売。来店者は1日500

「ものマルシェ」を定期的に展開。JAは「マ

原種に近い「嘉定種」。同地域の気候や地質に適しており、良質なニンニ

ページに掲載。インスタグラムキャンペーンの他、生産者による屋台販売や、姉妹JAである福島県のJA会津よつばのファーマーズマーケット「まんまっじゃ」の出張販売

ブルーベリー出荷組合は6日、JA夷隅選果場で2018年産の出荷査定会を開いた。生産者、JA担当者の18人が参加。簡易サイズ測定、ゲージなどを使った現品査定で、

と呼び掛けた。同組合は「いすみのブルーベリー」を全国的に有名なブランドにしようと、高品質のブルーベリー作りと通販サイト「JA Aタウン」でのインター

## JR上野・秋葉原駅「のものマルシェ」

千葉・JA山武郡市

人に上り、「リピーターが増えつつある」とJA担当者は手応えを感じている。

「のもの」上野店の関祐之店長は「JAは『本当に売れるのか不安』と感じていたようだが、今では来店者から『JAはいつ出店するのか』という問い合わせを受ける。『JAの野菜は鮮度が良い』『売り子さんとお話するのが楽しみ』という声を聞くようになった。認知度アップにもなっており、店にとって相乗効果を生んでいる」と話す。(千葉・山武郡市)

契約農家らは、事前にも栽培面積を増やして挑

出荷者は「良いニンニクが収穫できた。今年度も栽培面積を増やして挑



20万円で落札された貴味メロ

【千葉 八街 大田】

果みらい中央卸売で、仲買イカの下長、JAの他、関した。北も八街市力ができくさんい」と、人にアピ試食用を切り分ターの前果まり、を裏付け分が20分した。仲買人は本高く評価小島車